

『地域活動を活性化』

熱活！

～ 山梨県立大学生の地域活動への参画 ～

みんなで「あつまり」「つながり」
「活躍する」ためのホットな情報
をお届け！

発行：甲府市協働支援センター

地域活動 = 住民交流の場

穴切地区の地域イベントに際し、山梨県立大学の学生 3 名が“まゆだま”を作り来場者に配付しました。

来場者からは「学生のまゆだまが楽しみで来た」、「会場で久々に会った人もいたので楽しかった」等の声が多く聞かれ、会場が大いに賑わいました。

◀まゆだまを配付する学生

左から順に、大岩さん・大久保さん・志賀さん



学生が望む地域活動への参加のカタチ

「地域活動に参加したいけど、どうしたら良いか分からない」、「情報が伝わってこない（何をしているか分からない）」など、参加したくてもできない状況があると学生は感じています。

令和 5 年度、甲府市は山梨県立大学と連携し、「学生が自治会活動について理解を深めるための講座」を授業の一環として開講しました。講座は大きく「自治会の概要を学ぶ座学」、「地域を散策し強み・課題を把握するフィールドワーク」、「自治会長へのインタビュー」、「地域活動への参画」の 4 パートからなっており、学生からは「学生でも地域活性化の一役を担えることが分かった」、「学生の力を必要としてくれる地域があることを知れて良かった」などの感想が聞かれました。



▲フィールドワークで地域の現状を把握



学生は、学生にできることで地域活動に関わりたいと考えています。これからのより良い地域づくりには、学生を「地域活動の活性化を担う協働の相手方」と捉え、学生のアイデアや活力を活かした地域活動のあり方を検討していくことも必要なかもしれません。

【学生の強み（一例）】

- ・ 広報活動（チラシ作成や SNS 等での周知）
- ・ 地域イベントの賑わい創出（企画・運営の補助）



取材希望団体募集中！

取材を希望する地域やボランティア団体などを募集しています。協働支援課までご連絡ください。
☎ 055-231-5537

これまでに発行した「あつ活 NEWS!」は、
協働支援センターホームページからご覧ください！

音声版もありますよ！



協働支援センターHP

自治会と学生が協働

あつ活サポーター 地域行事を支える

持続可能な 自治会運営を探る!

自治会活動を支援してくれたのは、あつ活サポーター団体の『甲府南ローターアクトクラブ』に所属する学生5名の皆さんです。コロナ禍明けで4年ぶりの開催となるどんど焼に家族で楽しんでもらおうと甲府市春日地区自治会では、子どもがいる世帯にも楽しみながら伝統行事を知って・参加してもらい未来に向けて継続していこうと、餅つきやお焚き上げの行事に加えて伝統的なお正月遊びを企画。あつ活サポーターの5人には、訪れた家族連れの子も達と一緒に竹とんぼや凧揚げなどの遊び方を教える先生となって活躍してもらいました。老若男女が集い、家族で楽しむ地域行事として盛り上がりました。



▲あつ活サポーターで甲府南ローターアクトクラブに所属する学生5名



▲無病息災を祈願してまゆだまを焼く地域の皆さん



▲竹とんぼ遊びを楽しむ子ども達とあつ活サポーター

親子連れの方々からは「家族で楽しめた」、お年寄りの皆様からは「昔を思い出すことができた」との感想が聞かれました。これまでの地域行事の在り方に加え、若い世代を取り込むための工夫をあつ活サポーターがお手伝いしてくれたどんど焼開催となりました。

会長より

コロナ禍前は切り餅の配付だけで、みんなが集まって行事に参加して楽しむことが出来なかったのが盛りに欠けた。今回は伝統行事の意味を学ぶことに加え、子どもが参加して楽しんでもらったのでたくさんの親子連れの姿があった。あつ活サポーターの学生が伝統行事を盛り上げてくれたので、今後も継続してほしい。



▲加々美富明 会長



取材レポート

地域活動のデジタル化事例をお寄せください

身近なものとなっているデジタル化。これを自治会活動などにうまく取り入れることができればいいんだけど…、具体的にはどんなことをしていけば良いのだろう…、などの相談が増えてきています。そこで、デジタル化に関する先進的な取組をしている自治会等の各種団体組織を取材

させていただきます。『連絡手段は今までは紙がメインだったけど、デジタルに変えてからここが楽になった』や『組織運営や活動にデジタル化を取り入れているけどここが課題』などの具体的な情報をお待ちしております。甲府市協働支援センターまで。



▲春日地区どんど焼き会場でのふれあいのひとコマ(あつ活サポーターが地域行事に参加したお年寄りにスマートフォンの操作を教えている様子)